

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2395700129		
法人名	(医)宏友会		
事業所名	グループホーム阿久比 1丁目		
所在地	愛知県知多郡阿久比町大字萩字新川32		
自己評価作成日	2020/9/28	評価結果市町村受理日	令和3年1月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2395700129-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和2年11月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

阿久比町の南部に位置し、田園に囲まれたどこかしら懐かしい風景がホーム周辺にあります。認知症になっても、料理の片づけや洗濯物量み、畑作業に日曜大工等、今までできていたことを共同生活の中でスタッフが支援し応援しています。

また、隣接するクリニックからの訪問診療や訪問看護ステーションとの連携で充実の医療体制を確保。入所後は、ご家族との絆や、ご友人とおつき合いも大切にし、地域に根付いたサービスで、「ここに来て良かった！」と笑顔で支え合う毎日をお過ごしいただけるようスタッフが一丸となって支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム関連の医療機関が、ホームから徒歩で移動できる場所にあることで、利用者の健康状態に合わせた受診支援等が行われており、医療面での支援が充実していることが当ホームの特徴でもある。ホームでは、共用型のデイサービスが行われていることで、利用者が住み慣れた在宅での生活を継続しながら、利用者や家族の状況等に合わせてグループホームへ生活場所を移行することが可能である。利用者にとっては、同じチームの職員による支援が継続されていることで、円滑な生活場所の移行にもつながっている。ホームの日常生活については、現状の感染症問題があることで、利用者の外出が困難になっているが、両ユニットのフロアーがつながっている利点も活かしながら、日常的に歩行訓練等が行われており、利用者の身体機能の向上につながる支援が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝、朝礼時に「法人理念」「GH阿久比運営理念」を唱和しスタッフ共有の元実践できるようにしている。	運営法人の基本理念及びホーム独自の理念をホームの支援の基本に考えながら、日常的に職員間で共有する取り組みが行われている。また、職員間で目標をつくり、理念の実践につなげる取り組みも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	現在、感染症の予防から地域交流は実施していないが、回覧板や地区長、民生委員の声掛けに応じている。	地域の方との交流については、現状の感染症問題があることで困難になっているが、地域の町内会の方との情報交換等が行われている。例年は、地域の行事に参加したり、ボランティアの方による行事の開催等が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	通所利用者のご家族に「認知症交流会」や「講演」があるとお知らせしている。また、玄関の掲示板で面会の方々に分かるようポスター掲示もしている。認知症サポーターリング装着など。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	自肅前は定期的開催。行政、包括、地区民生委員、地区の方代表者が出席。出席者が疑問や活動内容の質問を答える事でサービス向上に努めている。	今年度については、文書にて実施しているが、会議の際には、複数の地域の方の参加が得られる等、交流の機会にもつながっている。また、会議の際には写真も活用しながら報告しており、出席者にホームへの理解を深めてもらう働きかけにつなげている。	家族の参加については、感染症問題が起こる前から人数が少なくなっている状況であった為、会議を再開する際には、家族への働きかけにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	取り組んでいる。行政からは厚生労働省からの情報やアンケート、地域福祉計画会議出席の案内で積極的に参加している。	町の担当部署との情報交換等については、運営法人や関連事業所を通じても行われているが、ホームからも管理者が町の地域福祉計画の委員を務める等、定期的な情報交換等が行われている。また、町で行われている行事への参加も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用者様には「身体拘束指針用紙」があり、入所前の契約時に報告している。スタッフのミーティング時に拘束になる？疑問を話し合う機会があり拘束予防に努めている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われているが、利用者の状況等に合わせた必要な対応も行われており、職員間で検討が行われている。運営推進会議を通じた身体拘束に関する検討や定期的な職員研修を行い、振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員は常に「虐待防止」を意識している。スピーチロックを中心に行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護の制度は管理者、社福士以外は内容に乏しい。アセスメント時に課題がある時、介護士に理解できるよう社会資源がある事を伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に管理者が行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	関係者が外部へ表せる機会はない。機会があれば是非は運営推進会議、法人内の会議に反映させたい。	ホームで行われている家族との交流会の際には、家族に案内を行う交流につなげている。家族からの要望等については、管理者が受けるが、必要に合わせて運営法人でも対応が行われている。また、2か月毎に便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的ミーティングを行い、個人的な意見が出せる様に会議前に個別用紙を配布。提案を募っている。	毎月の職員会議や日常的な意見交換等を行いながら、管理者が把握した職員からの意見等は、運営法人に報告され、ホームの運営への反映につなげている。また、管理者による年2回の面談や職員間で役割分担を行う取り組みが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の努力、実績は個々に話し合う機会があれば行っている。又定期的に人事考課面接があり目標を立て結果を話し合うことで業務が向上できるよう働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	勤めている。スタッフ個人の目標もあるので強くは勤めていない。法人内外の研修は皆が参加できるよう案内を掲示している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	現在自粛していることもあり積極的に交流はしていない。電話やメールで共有した情報の交換はしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	認知状態にもよるが、信頼関係を築けるように個々に意見やお話を伺うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族支援でメールや介護保険制度の理解、メンタルの相談を受けている。不安な点はご家族の方から管理者宛てに相談があり信頼に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホーム内のサービス以外に法人内のできるサービス導入を検討。提案をしている。(生活機能向上訓練、栄養指導)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	現在、築こうとしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人とご家族の信頼を継続できるように配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	幼馴染の手紙、家族からの季節の手紙を拝読するなどして関係継続に努めている	利用者の中には、入居前から行われていた地域の方の集まりに参加している方や、入居前からの生活習慣を継続する等、馴染みの関係の継続が行われている。また、家族との外出も行われており、身内の方の法事等への出席も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	行っている。ユニット同士、同じ町内の方々が共に暮らしている。声掛けで関係が深まるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了(逝去)後の交流はほとんどない。夫、或いは妻が退所後、伴侶が入所したいとゆうご希望はあるので相談に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各個人でその方に合った対応をしている。傾聴を主としご本人が行いや発言に気付くことでご本人の意見を尊重できるケアを行っている。	職員間で利用者を担当する取り組みも行いながら、利用者に関する意向等の把握につなげている。また、毎月の会議を通じたカンファレンスを実施しており、利用者の意向等を職員間で検討し、日常の支援に反映する取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	管理者、ケアマネは把握しているが、一部スタッフは努めていない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一部スタッフは努めていない。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご家族がホームに一任している方が多い。一部利用者様に限定される。	ライフサポートプランの様式を活用しながら、介護計画の見直しについては、利用者の状態変化等にも合わせながら3か月での見直しが行われている。また、日常的にも記録用紙に介護計画に関するチェックを行いながら、3か月でのモニタリングにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	各個別記録は行っているが、変化が無ければそのままになっている。定期的にモニタリングを行っているためプランの見直しは行いケアマネからスタッフに声掛けし意見をプランに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	取り組んでいる。生活継続以外に機能訓練、地域の認知症の方の生活支援を取り組んだ共有型のデイを行う等、地域のGH支援を活かした取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源は行政広報や区長との交流で生活支援ができるよう情報収集している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	行っている。個人のかかりつけ医を尊重し薬剤情報や体重、栄養状態、認知症状の情報を提供している。	ホームの近隣に関連の医療機関があることで、定期的及び随時の医療面での支援が行われているが、利用者の中には、今までのかかりつけ医を継続している方もあり、家族の支援で受診している。また、関連の訪問看護による医療面での支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週1回、法人内の訪問看護師が医療相談、介護士にできない医療行為を行っている。緊急時は隣接の医療施設で支援していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	MSWと密な情報交換を行うことで利用者様の不安を少しでも軽減できる体制でありたいと思っている。病院主催の研修に出席し地域関係者との繋がりもできるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ケアの方向性が整っていないと良いケアに繋がらない。ご家族様とのよく話し合い「看取り」の説明、緊急時の対応を話し合うことでチームで支援に取り組んでいる。	身体状態の重い方もホームでの生活を継続しており、協力医との連携を深めながら、利用者の看取り支援も行われている。利用者の段階に合わせた家族との話し合いを行い、医療機関や特養等への移行と合わせて、家族の意向に合わせた支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	全ての職員とはいいがたいが初期対応の処置はできるようにしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	ホームのBCPIにより年2回訓練を行っている。避難場所の確保は隣接施設、水害が起こる前などサービスが不能になる前にご家族の協力が得られるよう契約時に説明することになっている。	年2回の避難訓練については、夜間を想定した訓練や通報装置の確認等が行われている。災害時に関する関連事業所との連携も行われており、水害時の避難先の確保が行われている。また、ホーム内に水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	近隣に民家が少ない地域でもある為、関連事業所とも連携しながら水害を想定した対応等、ホームの継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	概ねできている。	運営法人の基本理念でもある「職員心得三条」には、職員による利用者への対応についても掲げられており、職員の日常的な意識や管理者からの注意喚起等にもつなげている。また、運営法人を通じた接遇に関する研修も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	おやつ時に本人の飲みたいものを選ぶことができる様声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	希望に添える支援は遠いと感じる。手薄な人員の時は職員側の都合に走りやすい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その方らしくと思いを感行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一部利用者様は準備の手伝いをしているが、法人内に厨房がある事で準備はほとんど職員が行っている。	食事については、関連事業所の厨房から提供しており、ホームのキッチンで利用者の身体状態に合わせた食事形態の対応が行われている。ホームでもおやつ作りや調理レクが行われており、利用者も参加した取り組みが行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄表の確認で間隔や、排便状態を把握している。	排泄記録を残し、職員間での日常的な情報交換等を行いながら、利用者の身体状態に合わせた排泄支援が行われている。トイレでの排泄を基本に考え、利用者の中にはオムツからパンツに移行した方もいる。また、排泄に関する医療面での支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	職員の都合上で支援している。(人員の不安定)	入浴については、利用者が週2回を基本に入浴ができるように支援が行われており、入浴を拒む方も声掛けを工夫しながら定期的な入浴が行われている。また、浴室に特殊浴槽が設置されており、身体状態が重い方の入浴にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全ての職員は薬の内容把握できていない。症状の変化確認は行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	気分転換に楽しみのある時間を過ごせるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	現在、自粛中。特別、緊急時以外の外出は控えている。介助後は近隣の観光や展覧会に参加できるよう支援していきたい。	感染症問題があることで利用者の外出が困難になっているが、感染症対策の検討を行いながら、自動車を活用した外出等、可能な範囲での外出の取り組みが行われている。昨年までは、関連事業所の行事に出かけたり、季節に合わせた外出行事が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一部利用者様に限る。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	一部利用者様が行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	整理整頓、清潔に心がけている。	ホーム内は広めの空間が確保されており、両ユニットが平面でつながっていることで、利用者が日中の生活をのんびりと過ごすことができる生活環境がつけられている。また、リビングや通路の壁面には、季節感のある飾りや利用者の作品の掲示が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファの前でテレビをご覧になったり、談話したりと自由に過ごす事ができるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	行っている。認知症による症状で不穏に陥る事の無いよう居心地よくできるように気持ちの上でも配慮している。	居室にベッドとタンスが備え付けとなっていることで、持ち込みの少ない方もいるが、利用者や家族の意向等にも合わせながら、好みの物や趣味の物等の持ち込みが行われている。また、身内の方の写真や自身の作品を飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	職員の介護意識の違いからご本人の能力を「活かす」事が少ないと感じている。		